

ふるさと農道緊急整備事業西町地区

—埋蔵文化財緊急発掘調査報告書—

山の神遺跡

1998. 3

伊那市経済部耕地林務課
伊那市教育委員会

ふるさと農道緊急整備事業西町地区

—埋蔵文化財緊急発掘調査報告書—

山の神遺跡

1998. 3

伊那市経済部耕地林務課

伊那市教育委員会

序

文化の向上・進展と、新しき時代のニーズに応え、住民の日常生活を豊かにするために、地域の開発は必要不可欠な方策と言わざるを得ません。これを実現するために各々の市長村行政は積極的な方針を策定し、これに邁進してまいりました。これに反して、埋蔵文化財は現状保存が最も望ましい姿であります。一度、発掘されれば、再び、元のような状況には還らず、それは消滅を意味します。このようななかで、地域開発と文化財保護は、しばしば対立する事態が発生する事が多く、行政上、その判断に迷うことがあります。

山の神遺跡は、近年注目されている古代の東山道、近世の春日街道の通過地点ではないかとの説が提唱され出しているが、その確たる実証はなされていないのが現状であります。このような趨勢の中で、緊急発掘調査が進められ、伊那市教育委員会では、いろいろな方面から考えて調査団長を友野良一先生に依頼しましたところ、先生は快く受理してくれました。

調査は寒さの厳しき12月上旬から、中旬にかけて行われました。

始終、発掘及び報告書の任に当たられた友野良一先生、また、発掘調査の面でいろいろ御指導下さいました伊那市経済部耕地林務課職員一同に深甚なる敬意と感謝の誠を捧げたいと思います。

平成10年3月3日

長野県伊那市教育委員会

教育長 保科恭治

例 言

1. 本書は、平成9年度に実施したふるさと農道緊急整備事業西町地区に伴う埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書である。
2. この緊急発掘調査は伊那市長の委託により、伊那市教育委員会が市内遺跡発掘調査団を編成し、この調査団に事業を委託して実施した。
3. 本調査は、平成9年度中に業務を終了する義務があるため、報告書は図版を主体とし、文章記述もできるだけ簡略にし、資料の再検討は後日の機会にゆずることとした。
4. 本文執筆者は、次のとおりである。担当した項目の末尾に氏名を記した。

飯塚政美

◎図版作製者

- ・地形実測図 飯塚政美
- ・土器拓影 本田秀明

◎写真撮影者

- ・発掘状況 飯塚政美
- ・遺物 飯塚政美

5. 本報告書の編集は主として伊那市長から委託を受けた市内遺跡発掘調査団がおこなった。
6. 出土遺物、遺構図及び実測図類は伊那市考古資料館に保管してある。

目 次

序

例 言

目 次

挿 図 目 次

図 版 目 次

第I章 発掘調査の経過	(1)
第1節 発掘調査に至るまでの経緯	(1)
第2節 調査の組織	(1)
第3節 発掘調査日誌	(2)
第II章 遺跡の環境	(4)
第1節 遺跡の位置	(4)
第2節 歴史的環境	(4)
第III章 調 査	(7)
第1節 調査の概要	(9)
第2節 遺構と遺物	(9)
第IV章 所 見	(10)

挿 図 目 次

第1図 小黒川周辺地域遺跡分布図	(6)
第2図 地形及びトレンチ配置図	(7)
第3図 出土土器拓影	(9)

図 版 目 次

図版1 遺跡遠景
図版2 発掘調査状況
図版3 発掘調査状況及び遺物出土状況

第 I 章 発掘調査の経過

第 1 節 発掘調査に至るまでの経緯

今回緊急発掘調査の対象となった山の神遺跡（伊那市大字伊那西町区小黒原所在）一帯は畑地帯総合土地改良事業伊那西部地区に該当している。本遺跡は後述べるように昭和50年度に伊那市水道局の事業に伴って緊急発掘調査を実施し、翌年3月に調査報告書を刊行している。今回の発掘調査を実施する直接的な動機はふるさと農道緊急整備事業を導入することによっている。昨年の小黒南原遺跡一帯は上伊那地方事務所土地改良課が、本年の山の神遺跡一帯は伊那市役所耕地林務課がそれぞれ担当してきている。

平成8年9月26日、伊那市立図書館視聴覚室で、長野県教育委員会文化財保護課指導主事、伊那市役所耕地林務課職員、伊那市教育委員会社会教育課職員三者で平成9年度分の埋蔵文化財保護協議を締密に実施し、事業の準備・進捗に支障が生じないように万全を期すための協力をはかった。

平成8年4月2日付けて、伊那市長小坂樫男と市内遺跡試・発掘調査団長友野良一両者で埋蔵文化財包蔵地試・発掘調査委託契約書を取りかわす。

平成9年11月4日付けて、文化庁長官宛に埋蔵文化財発掘の通知について（第57条の3第1項の規定による）を提出する。

平成9年11月6日付けて、文化庁長官宛に埋蔵文化財発掘調査の通知について（第98条の2第1項の規定による）を提出する。

平成9年12月11日付けて、山の神遺跡発掘調査終了届を長野県教育委員会教育長宛て提出する。

平成9年12月11日付けて、山の神遺跡発掘調査出土埋蔵文化財の拾得についてを伊那警察署長宛に提出する。

平成9年12月11日付けて、山の神遺跡発掘調査出土埋蔵文化財保管証を伊那警察署長を経由して長野県教育委員会へ提出する。

第 2 節 調査の組織

緊急発掘調査に着手する前に次のような組織編成を行い、万全を期した。

伊那市教育委員会

委員長	小田切	仁
委員長代理	小坂	栄一
委員	岸	敏子

委員	小松光男
教育長	保科泰治
教育次長	柘植晃
事務局	新井良二(社会教育課長)
"	鳥原千恵子(社会教育副参事 女性室長)
"	白鳥今朝昭(社会教育係長)
"	矢澤謙一(社会教育青少年係長)
"	飯塚政美(社会教育係)
"	有賀恵(")

発掘調査団

団長	友野良一(日本考古学協会会員)
調査員	飯塚政美(")
"	本田秀明(長野県考古学会会員)
作業員	城倉三成 那須野進 織井和美 有賀秀子 酒井とし子 大久保富美子 松下末春 小田切守正(敬称略順不同)

第3節 発掘調査日誌

平成9年12月1日 コンテナハウス1棟とスペースハウス1棟をそれぞれ運搬し、整地してその場所に並列的に建てる。

平成9年12月2日 トレンチ掘りを北側へ進めるが、遺物の出土は何も無く、従って、遺構の検出も全く無かった。ただ、地層に大きな凹凸があり、東西に幾筋もの沢が入っていたようである。

平成9年12月3日 道を隔てた西側にてトレンチ掘りを進めるが、遺物の出土及び遺構の検出は何も確認出来なかった。

平成9年12月4日 前日と同じ作業を続行するが、その成果は全く無かった。

平成9年12月5日 第5号トレンチ、第6号トレンチの掘り下げを着々と進めていくが、何も成果は上がらなかった。

平成9年12月9日 第7号トレンチを掘り進めていくと、縄文時代後期土器片が1点と縄文時代晩期土器が1点、合わせて2点が出土したが、周辺より遺構の検出は認められず、発掘作業員全員は落胆の息で充満していた。第6号トレンチ、第7号トレンチの埋め戻しを終了する。本日をもって、一応、発掘現場での作業は幕を閉じた。

平成9年12月10日 発掘現場の道具一切を撤収して、伊那市考古資料館へ運搬し、整理、整頓、収納をとどろりなく終えて、極めて長期間にわたって継続してきた平成9年度の発掘作

業を無事に完了することが出来たのである。これも一重にみんなの努力の賜である。

平成10年1月～平成10年2月 遺物の整理、図版の作成、原稿執筆、報告書を印刷所へ送る。

平成10年3月6日 報告書を刊行する。

(飯塚政美)



重機を用いてトレンチを掘り進める

第II章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置

山の神遺跡は、長野県伊那市西町区小黒原地籍、小黒川左岸河岸段丘の奥まった一帯にその範囲を有し、西側で伊勢並遺跡、南側で小黒南原遺跡にそれぞれ接している。

本遺跡地までの道順はJ R飯田線伊那市駅で下車し、駅前の道路を西へ200m位行った地点で四角を左折し、県道伊那駒ヶ岳線を南へ向かって150m位進むと三叉路があり、ここで右折して坂道を西方へ登る。登りだすと左手途中に天台宗円福寺、右手に荒井神社が鎮座し、静寂のたゞまいを呈し、地域住民の崇拜の中心地となっている。荒井神社前の三叉路を左に曲がると同時に、左手に伊那健康センターの白い建物が目に入り、さらに西へ進むと左手に長野県伊那弥生ヶ丘高等学校、右手に伊那市立伊那中学校の校舎が規則的に建てられている。

伊那中学校の南側がY字路を呈しており、左折すると左手に長野県伊那文化会館、右手に長野県伊那勤労者福祉センターの建物がひととき目立つ。これらの周囲には広い駐車場、運動場、テニスコート、陸上競技場の諸施設が完備されており、スポーツ振興の一大拠点となっている。勤労者福祉センターの西側に婦人の家があり、この南側を左折、直進して100m程南へ行くと、この一帯が山の神遺跡の東端地である。

第2節 歴史的環境

小黒川を中心にして、南、北両河岸段丘面に広範囲にわたって存在している遺跡は中央道より東側では19カ所確認されており、これらは1つ、1つの諸特徴を持っている。この一帯は先土器から近世さらに昭和時代に至るまでの各時代にわたる遺跡が存在しており、連続として人間の営みが実証できることであり、伊那市の歴史をひもとく上で、最も重要な地域の一つに考えられている。

山の神遺跡は今回は2度目の調査であった。この遺跡と一部で接する伊勢並遺跡は過去5回の発掘調査を実施し、次のような成果を得ている。先土器時代の葉状尖頭器、剥片石器、縄文早期斜縄文土器、格子目押型文、茅山上層式、天神山式、縄文前期初頭木鳥式、縄文中期五領ヶ台式、井戸尻式、曾利式、弥生中期の土器が出土。平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器、青銅製の和鏡が発見され、複合遺跡の様相を強く実証してくれている。

赤坂遺跡は過去に2回の発掘調査を行っている。第1回目の調査は昭和48年度中央自動車道開通時で、木鳥式、曾利式土器片が少量出土。第2回目は平成6年度西部開発事業時で、遺構・遺物の検出は何も無かった。これらから見て、遺物散布地のように思われた。

ますみが丘遺跡は小黒川河岸段丘の最遠地域にあり、水利便は最悪であった。従って遺物の

出土は希薄で、縄文中期土器数片と、同期の石鏃、打製石斧数点の出土を確認しているに過ぎない。上ノ山遺跡は平成6年度夏場に発掘調査を実施し、次のような成果をあげている。遺構としては江戸時代掘立柱柱4棟、昭和時代竪穴防空壕2基、昭和時代ゴミ捨場(特に明治時代～昭和時代の磁器が多量に層になって出土した)。遺物としては縄文早期茅山式土器片、石鏃、近世陶器片、前述したような磁器片を検出した。以前に刊行された発掘調査報告書に井戸尻式土器、平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器の出土が報じられている。

山の神遺跡は昭和50年に市水道局の事業に伴って緊急発掘調査を実施したが、遺構・遺物の出土は何も無かった。縄文早期・曾利式、弥生後期等の土器片と、平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器、中世の天目茶碗が表面採集されている。小黒南原遺跡は平成8年に先土器時代の尖頭器が出土。

狐塚北・狐塚南・八人塚古墳は近接しており、6世紀後半～7世紀前半にかけての後期群集墳である。狐塚南古墳は昭和50年土取り工事によって緊急発掘調査を実施し、直径14m、高さ2.1mの規模を持った円墳であることが判明した。横穴式石室形態で、底面は亀腹状に小黒川産の円形状花崗岩を整然と配列し、これらの接する地点に川砂をきれいに敷き詰めてあった。この調査で出土した遺物は鉄鏃、轡、金環、玉、杏葉、土師器、須恵器であり、特に杏葉3枚はその製作技術が優れている点で、現在、伊那市有形文化財考古資料に指定されている。

狐塚北古墳は横穴式石室を有する円墳であるが、まだ発掘調査の手は入っていないが、盗掘はおそらくうけているのであろう。八人塚古墳は以前に発掘調査が実施され、その成果については塩原伝氏が『考古学雑誌』に発表しており、それについては『伊那市史歴史編』に掲載してある。

平安時代の灰釉陶器移入には東山道が利用され、現在、この道はこの地域周辺を通過していると研究されており話題を投げかけている。さらにこの一帯は近世の春日街道通過地点として注目を浴びている。小黒川南岸の遺跡内容については次のように列挙してある。(飯塚政美)

12 山本田代遺跡 (昭和48年発掘)

(縄文) 中期初頭 後期土器 打石斧 磨石斧

(平安) 竪穴住居6 小竪穴 土師器 須恵器 灰釉陶器 鉄鏃 刀子 鉄具 鉄滓

(中世) 土鍋 陶器(黄瀬戸 天目)

(近世) 陶器 青銅製品

13 城平上遺跡 (昭和47年発掘)(縄文) 中期土器 (平安) 土師器 須恵器

14 城平遺跡 (昭和47年発掘)

(縄文) 竪穴住居1 中期末 後期 晚期土器 磨石 石棒

(平安) 竪穴住居8 土師器 須恵器 灰釉陶器 砥石 刀子

(中世) 地下倉3 小竪穴2 墓壇4 内耳土器 陶器(黄瀬戸 天目 備前) 青磁

石臼 砥石 刀子 ピンセット状鉄製品 釘 火打金具 古銭

- 15 宮林遺跡 (縄文) 中期土器 打石斧 焼石
- 16 北条遺跡 (昭和49年発掘)
 (縄文) 中期竪穴住居 8 中期土壇 4 配石 1 勝坂式 加曾利E式 石鏃 打石斧 磨石
 凹石 磨石斧 剥片石器 砥石 棒状石器 石鏃
 (奈良) 竪穴住居 1 土師器 須恵器 陶碗
 (平安) 竪穴住居 2 土師器 須恵器 灰釉陶器
- 17 山本遺跡 (縄文) 中 後期土器 打石斧 (弥生) 土器
- 18 上島下遺跡 (縄文) 前期土器
- 19 上島遺跡 (昭和48年発掘) (先土器) 剥片
 (縄文) 前期竪穴住居 2 小竪穴 2 前期土器 打石斧 磨石 敲石 石皿 磯器 横刃形
 石器 棒状石器
 (平安) 竪穴住居 1 小竪穴 1 土師器 須恵器 灰釉陶器



第1図 小黒川周辺地域遺跡分布図 (1 : 20,000)

遺跡の名称

- ①山の神 ②伊勢並 ③富士塚 ④上ノ山 ⑤ますみが丘 ⑥狐塚北古墳 ⑦狐塚南古墳
 ⑧八人塚古墳 ⑨小黒南原 ⑩赤坂 ⑪ウグイス原 ⑫山本田代 ⑬城平上 ⑭城平 ⑮宮林 ⑯北条
 ⑰山本 ⑱上島下 ⑲上島

第三章 調査



第2圖 地形及びトレンチ配置圖 (1:1,000)

第1節 調査の概要

山の神遺跡は、現在、畑地、原野に利用され、西側に活断層地帯が南北に走向している。一度、この一帯を切りくずすと地層のくい違い、いわゆる断層の露頭が顕著に見られる。

農業を守るための法律、所謂農業振興法の網が厚く掛けられており、その結果、開発化への波及度は鈍く、農道整備事業、西部開発事業が導入されているに過ぎない。今回の調査は道路幅に限定された区域のために、当初に期待を抱いていた程の成果は上げられなかった。

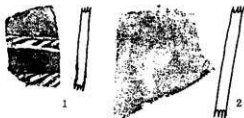
畑地帯中心の耕作土であったために、テフラ層は擾乱が少なく、安定した状態であったが、遺構の検出は全くなかった。地形自体が起伏状態を呈し、ところどころに沢が東西に走っていた姿が明瞭であった。

第2節 遺構と遺物

遺構については前節で述べたように全く検出されなかった。遺物については第3図に掲載した土器片だけで、他は何も出土しなかった。第3図(1-2)は縄文時代後期、縄文時代晩期に編年づけられる一派であり、一般的に見て中厚手(5mm~6mm)に属する。ともに第7号トレンチ内より出土した。

(1)は無文地に、ある程度の間隔を保って、鋭角状の細い沈線を横走させ、それぞれ二本の沈線を一グループとした区画を形成し、その中に規則的に左下がりの刻目を押捺してある。赤褐色を呈し、少量の雲母を含み、焼成は極めて良好な精製土器の一派であり、文様の構成からみて加曾利B式に編年づけられよう。

(2)は無文地がその主流を占めている。茶褐色を呈し、焼成は良好で、少量の長石を含む。縄文時代晩期に隆盛した大洞A式の一派と察せられよう。(飯塚政美)



第3図 出土土器拓影(1:2)

第Ⅳ章 所 見

ふるさと農道事業施行前に発掘調査を実施した山の神遺跡の状況及び、わずかながらの成果は前述の通りである。わずかな成果のために深い研究は到底に無理が生ずることが明らかであり、簡単な所見に留めておくことにする。

本遺跡の規模と立地

本遺跡地の規模はわりあい狭く、遺物散布地的な色彩を持っている。今回の発掘調査地点は先に述べたように東側の境界線上に位置していると思われる。従って、集落の構成自体成された可能性は希薄と想定され、よって、遺構の存在も低いものと思われる。このようなことからして、今回の調査ではこれは何も検出されなかった。

遺物について

今回出土した土器は縄文時代後期中葉の加曾利B式、縄文時代晩期前葉の大洞A式のそれぞれ1片づつに限られた。このような状況はまさしく遺跡散布地の性格を裏付けさせてくれる確たる証明であろう。

最後に、この発掘調査に予算面及び日程等にご指導を賜った長野県教育委員会文化財保護課指導主事原明芳氏、現場での調査の便宜をとりはからって下さった伊那市役所耕地林務課職員一同及び地権者の方々、さらに直接的に、発掘調査に手をわずらわせた調査員の諸先生並びに作業員の各位に対し、深く感謝致す次第であります。

(飯塚政美)

版 圖



遺跡地を東側より眺む（上）

遺跡地を西側より眺む（下）

図版2
発掘調査状況



第1号トレンチ (左上) 南側より 第2号トレンチ (右上) 南側より
第3号トレンチ (左下) 南側より 第4号トレンチ (右下) 南側より

図版3 発掘調査状況及び遺物出土状況



第5号トレンチ（左上）南側より 第7号トレンチ（右上）南側より
土器出土状況（左下） 土器出土状況（右下）

報告書抄録

ふりがな	やまのかみいせき							
書名	山の神遺跡							
副書名	ふるさと農道緊急整備事業西町地区							
巻次								
シリーズ名	埋蔵文化財緊急発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	友野良一 飯塚政美							
編集機関	伊那市教育委員会							
所在地	〒396-8617 長野県伊那市大字伊那部3050番地 Ⅱ0265-78-4111							
発行年月日	西暦1998年3月6日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ***	東経 ***	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
やまのかみ 山の神	やまのかみ いなし 長野県伊那市 にしよろこみあはら 西町区小黒原	72	2377			平成9年 12月1日～ 平成9年 12月10日	500	ふるさと 農道緊急 整備事業 西町地区
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
山の神		縄文時代	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文時代後期の土器 ・縄文時代晩期の土器 		今回の調査地区は山の神遺跡の東端地付近と思われる。		

山の神遺跡

—埋蔵文化財緊急発掘調査報告書—

平成10年3月5日印刷

平成10年3月6日発行

発行所 伊那市経済部耕地林務課
伊那市教育委員会
印刷所 小松総合印刷所

